

目標の進捗状況報告書

(2013年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本シートでの自己点検・評価を行う部局と項目・要素は次のとおりである。

対象部局	社会学部
大項目	7 国際交流
中項目	
小項目	7.0.1 国際交流（国内外における教育研究交流）についての方針を明示しているか。
要素	(KG1) 国際化への対応と国際交流の推進に関する基本方針の適切性
小項目	7.0.2 国際交流（国内外における教育研究交流）を適切に行っているか。
要素	(KG1) 国際レベルでの教育研究交流を緊密化させるための措置の適切性 (KG2) 国内外の大学院間の組織的な教育研究交流の状況（院）

II. 目標の進捗状況評価と進捗状況報告(2013.4.30現在の進捗状況報告)

《進捗状況評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の自己評価を行っている。進捗状況評価はA、B、C、Dの4段階とし、2013年4月30日現在における目標の達成度評価(2013年度の達成に対してどこまで進んだかの評価)を行った。A、B、C、D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 国際化・グローバル化に対応した教職員スタッフの充実	→ 外国籍教員および外国での教育・研究歴をもつ教員の比率	B	B	B	B	/
2. 国際化・グローバル化に対応した教育課程の充実	→ 国際化、グローバル化などに対する理解を深める科目の設置	B	B	B	B	/
3. 国際化・グローバル化に対応した学生受入体制の充実	→ 受入時のオリエンテーション、学期途中・期末における出席/成績管理、アンケート調査・面接による実態調査など留学生受入体制の整備	B	B	B	B	/
4. 国際化・グローバル化に対応した語学能力の涵養	→ 必修科目「英語表現」において学生の使用言語も英語に限定する	B	B	B	A	/
		☆				
2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→	/	/	/	/	/
	→	/	/	/	/	/

《進捗状況》 ☆

目標の進捗状況について次のとおり簡単に説明する。

目標1	2012年度の外国人教員比率は13.2%であり、2011年度から1.6%低下している。教育内容の国際化・グローバル化に向けた対応の一環として教員の海外派遣もある。しかし、2012年度には長期1人、短期50人と2011年度からはやや低下している。
目標2	2009年度のカリキュラム改正で講義科目を3系7領域に整理したが、そのうちの1領域を「グローバル社会領域」として、国際化・グローバル化に対する理解を深める科目を設置している。また、マウントアリソン大学と協定し、ダブルディグリー制度を導入し、進学者も1名出ている。送り出し留学生が、長期24名、短期51名であり、2011年度からはわずかに低下している。
目標3	学部国際交流委員会を設置し、2012年度には外国人留学生について春学期・秋学期のアンケート調査および教職員と外国人留学生の懇談会を実施するなど、留学生の受け入れ体制の整備を進めている。2012年度受入外国人留学生は37名で2011年度より少し低下している。
目標4	2012年度には社会学部英語カリキュラム改革が実施された。英語・英語表現両科目において教員・学生の使用語を英語とした。さらに、共通教科書(英語のみ)、ティーム・ティーチング、社会学に近い授業内容などを導入し、学生がグローバルな環境に活躍できるように必要不可欠と見なされるアカデミック英語運用能力向上に取り組んでいる。2012年度には、第二外国語としてのドイツ語を履修する学生15名が、「外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠」(CEF)のA1レベルに相当するオーストリア語検定試験に合格し、国際的に認定されている資格を獲得した。
備考	

《評価指標データ》

(特定項目データ)本項目は数量的なデータによる評価(現状分析)が可能のため、次のとおり指標を定め経年比較している。

【社会学部】			単位	2008	2009	2010	2011	2012	2013	備考	
指標1	国際交流協定締結機関数		機関	3	3	3	3	3	3	5/1現在	
指標2	国際交流協定締結国数		国	3	3	3	3	3	3	5/1現在	
指標3	海外からの受け入れ学生数	国数	国	—	—	—	—	—	—		
		外国人留学生	正規	人	39	41	37	42	37	38	・5/1現在(学校基本調査) ・正規とは学位取得目的
			交換	人	—	—	—	—	—	—	・累計数 ・交換は正規以外とする。
		外国人留学生在籍学生比率	正規	%	1.4	1.5	1.3	1.5	1.3	1.4	外国人留学生÷在籍学生数
			交換	%	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
その他(セミナー等による受け入れ)	人	—	—	—	—	—	—	—			
指標4	海外への派遣学生数	国数	国	—	—	—	—	—	—	累計数	
		人数	長期	人	7	14	23	28	24	—	・累計数 ・1学期以上を「長期」
			短期	人	35	28	33	53	51	—	・累計数 ・1学期未満を「短期」
		在籍学生比率	長期	%	0.3	0.5	0.8	1.0	0.8	—	海外へ派遣した学生数÷在籍学生数
			短期	%	1.3	1.0	1.1	1.9	1.8	—	
指標5	海外からの受け入れ教員数									・累計数 ・1年間以上を「長期」	
指標6	海外への派遣教員数	長期	人	1	0	1	2	1	—	・累計数 ・1年間以上を「長期」	
		短期	人	51	37	54	70	50	—	・累計数 ・1年間未満を「短期」	
指標7	国連ボランティア(UNV)の参加者数		人	—	0	0	0	0	—	・累計数 ・春・秋の合計	
指標8	外国人教員比率		%	—	11.1	13.5	14.8	13.2	13.2	・5/1現在	

※指標3「海外からの学生の受け入れ」の「外国人留学生」(正規)は2009年度までは1年間の累計数。2010年度以降は当該年度5月1日現在の数字。(学校基本調査に合わせた。)